

# 2023 年度学童保育支援員研修レポート

## 怒りの理解と対処①～③

あおぞらクラブ 笥 由衣

嬉しい、楽しい、安心、怒り、悲しい、不安…人の中にある感情はここに羅列しただけでなく、まだまだたくさんあり、この感情の表現（口に出したり、行動に出したり）の仕方はやっぱり人それぞれかなと考えさせられた研修でした。また、感情というものの中で嬉しい、楽しい、という感情を大切に与えていくのと同じくらい、怒りという感情は人が生きていく中でなかなか大切なのではないかと考えさせられました。

怒りとは、自分の身の回りの安全や安心が脅かされたときに出てくる感情だという話を聞いたことがあります。

日々、子どもたちは一生懸命にケンカをして（自分の意思を伝えて）います。遊びのルールを勝手に決められた、勝手に変えられた、順番を守ってくれない、貸してくれないなどの思いは、子どもたちが安心して過ごすことができないという部分で、不快に感じたり安心が脅かされているのだらうなと思います。今回の研修では、そういったときに安心感のある大人が身近にいて、一生懸命共感したり一生懸命話を聞いていく、一生懸命言葉をかけていくことが子どもたちの社会性の形成につながっていくというお話でした。

なにがあったの？どんな出来事があなたをそんな風になっているの？本当はそうしたかったわけではないよね？など、声を掛けたり状況を聞こうとする中で、聞いて聞いてと言わんばかりに話してくれる子もいれば、泣くしかできない子がいたり、指導員の介入でやっと泣ける子もいるし、あっけらかんとしている子もいるし、黙り込んでしまう子もいます。

冒頭で書いたように、表現の仕方は子どもたちそれぞれで、それでいいと思ってはいますが一定数存在する黙ってしまう子に、黙ってしまうのは私に叱られると感じているからなのだろうなとへこんでしまうことも多々あります。しかしそれは、私という指導員がどういう叱り方をするのか、どんな時に叱るのか、どんなことを嫌だと思っているのかということや、嬉しい時や楽しい時はどんな表情をしているのかということ、そういったことを子どもたちが知らないところにあるのかなと考えました。

低学年のうちに嫌な思い、怖い思いをしたときには我慢せずに口に出せばいいことを伝え続け、友達とのけんかを繰り返し、指導員が間に入り、自分の思いや友達の思いを言えたり知ったりすることを積み重ねて、子ども同士の関係性や子どもと指導員の関係性をつなげていけるようになりたいなと思った研修でした。